

胆沢病院

減量サポート外来のご案内

心疾患の治療はこの10年で大きく変化しており、早期の発見により病状の進行が抑えられる薬剤が増えてきております。

この度、肥満症に対する薬剤が複数認可されました。肥満症は生活習慣病の上流に位置し、ここに介入ができるようになったことはより強力に慢性疾患の予防ができる可能性があると思われます。

胆沢病院 循環器内科では今後、肥満症患者さんをご紹介いただきたく存じます。

減量サポート外来について

診療科および担当医師 循環器内科 外来担当医
診療日 毎週月曜日 13時から

適 応

BMIが $35\text{kg}/\text{m}^2$ 以上、またはBMIが $27\text{kg}/\text{m}^2$ 以上で、高血圧、脂質異常症、2型糖尿病のいずれかの健康障害を2つ以上有している肥満症

ただし、高血圧、脂質異常症又は2型糖尿病のいずれかを有し、食事療法・運動療法を行っても十分な効果が得られず、以下に該当する場合に限る。

○BMIが $35\text{kg}/\text{m}^2$ 以上

○BMIが $27\text{kg}/\text{m}^2$ 以上であり、2つ以上の肥満に関連する健康障害を有する。

耐糖能障害	脂質異常症	高血圧
高尿酸血症・痛風	冠動脈疾患	脳梗塞・一過性脳虚血発作
非アルコール性脂肪性肝疾患	月経異常・女性不妊	肥満関連腎臓病
運動器疾患（腰痛・膝痛で労作が困難等）	睡眠時無呼吸症候群・肥満低換気症候群	

例えば・・・肥満で高血圧があり、腰痛で運動療法が行えない患者さん

肥満で非アルコール性脂肪性肝疾患と脂質異常のある患者さん

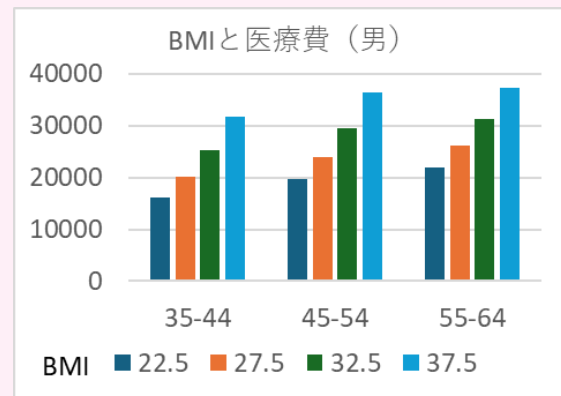
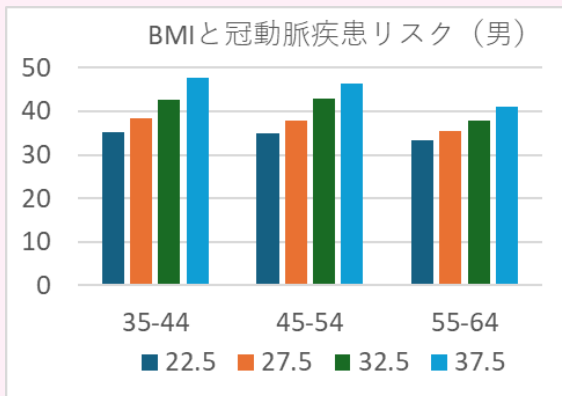
肥満で睡眠時無呼吸症候群が疑われる患者さん 等

上記のような適応ですが、例えば耐糖能異常は糖負荷試験が必要ですので、日常診療では検査が困難かもしれません。ご紹介いただいてから当院で改めて精査いたしますので、まずは患者さんをご紹介ください。

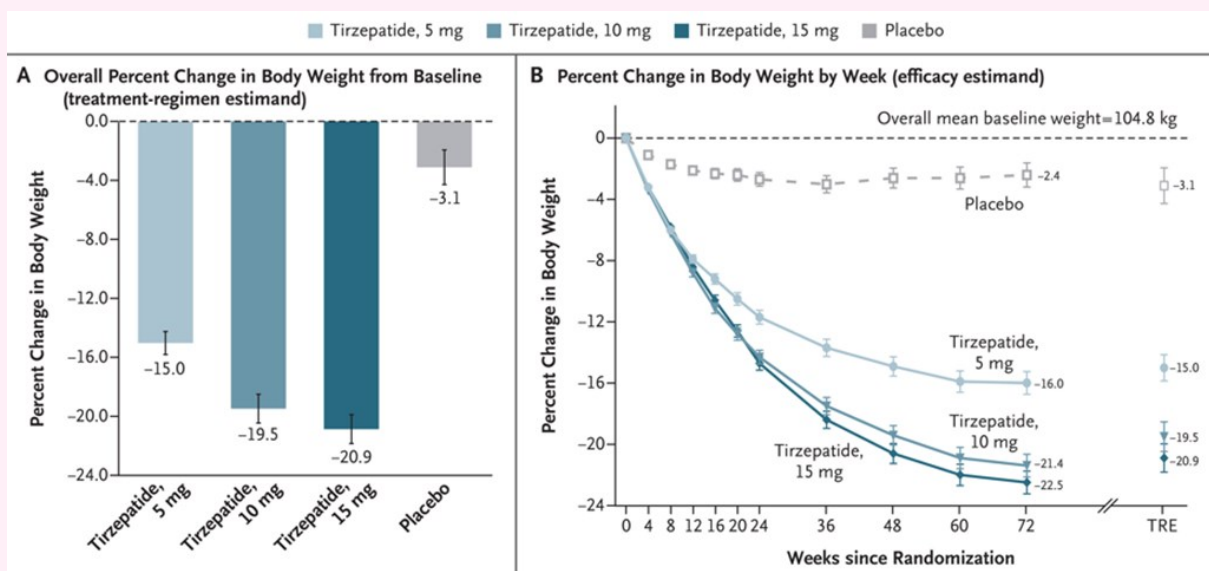
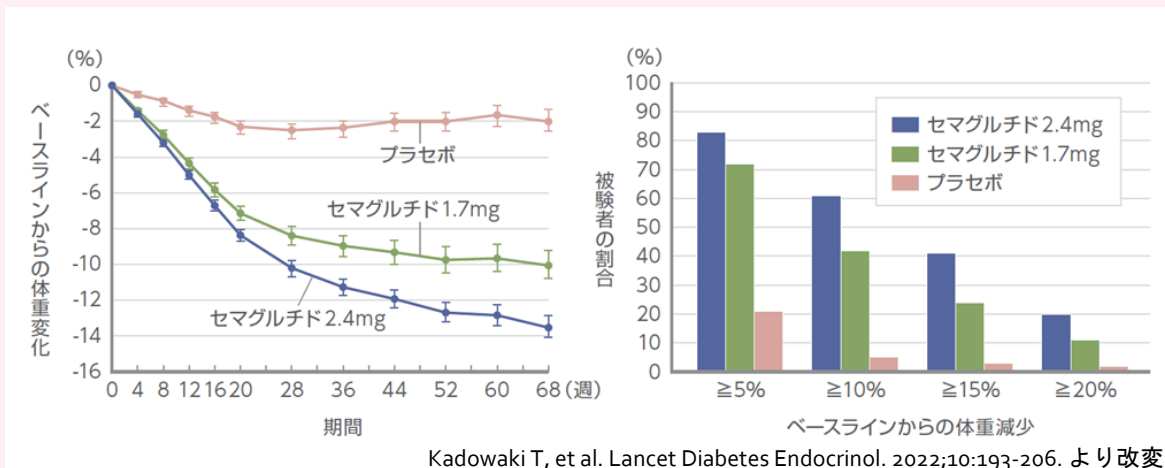
BMIと疾患

BMIが増加すると、冠動脈疾患のリスクを増大することはよく知られています。この関係は男女を問わず、脳梗塞でも同様の関係が認められ、肥満が死亡率を上昇させることが明らかになっております。

これに伴って、肥満関連の医療費もBMIとともに増大します。



この度、セマグルチド(ウゴーヒ®)、チルゼパチド(ゼップバウンド®)の2剤が肥満症の適応となりました。いずれの薬剤も10~20%の体重減少が得られる結果となっております。セマグルチドについては、心・腎の保護にもevidenceが出てきています。



決して安い薬ではありませんが、当然のことながら血糖値、さらにはコレステロール、中性脂肪、血圧等の低下もみられており、減量により睡眠時無呼吸症候群の改善も期待ができます。

患者さんの将来へ必ず役に立つものと考えますので、ぜひご紹介をお願いいたします。